



フотスクール 参加団体募集!



世界的写真家の
作品鑑賞と
デジタルカメラ講座で
写真の楽しさを
体験しよう。



概要

- ◆プログラム(120分)
作品鑑賞(展示室の解説)(15分)
→デジタルカメラの基礎講座(30分)
→美術館内外での撮影会(30分)→講評(45分)
- 対象:10人～25人のグループ ■講師:写真愛好家
- 機材:美術館で用意したデジタル一眼レフカメラ(1人1台)
- 費用:無料(町外の方は入館料が別途必要) ※詳しくは、美術館へお問合せください。

美術館展覧会情報

//////////////////// A・B・C展示室(2・3階) //////////////////////

植田正治、砂と空と海と

//////////////////// 2025年3月1日(土)～6月8日(日) //////////////////////

植田正治は、幼い頃、画家に憧れ、そしてカメラに興味を持ち、若くして営業写真館「植田写真場」を開業しています。写真家としての出発点はスタジオ撮影だったといえます。そして今回のテーマである砂と空と海は、まさに植田にとっては生涯を通しての“天然のスタジオ”であり、“巨大なホリゾン”(写真館などで使用される背景)だったのです。

戦後、砂浜や砂丘を舞台にした植田の演出写真が注目されたのは、1949年に弓ヶ浜で撮影された一連の家族写真であり、それに続く鳥取砂丘での群像演出写真でした。その後、リアリズム写真の台頭により、全く別の表現の模索を続け、1980年代はじめ、ファッション写真のジャンルで、再び鳥取砂丘で演出写真を展開しています。それぞれに異なる意図で撮影されていますが、独特の感性と遊び心に満ちた「植田らしい」作品の数々です。非日常的な空間、遠近感の喪失など、この“スタジオ”でしか創造できないイメージの数々が植田のスタイルのオリジナリティを際立たせていると言っても過言ではないでしょう。砂浜や砂丘での撮影の際に、空や海も重要な役割を果たし、砂丘と同様に時には違った形で、植田に強烈なインスピレーションを与え、豊かな表現をもたらしています。今回の展覧会では、植田の写真に頻繁に登場する砂浜や砂丘でのイメージを中心に、砂丘以外での空や海の表現に着目し、初期から晩年までさまざまな作品を紹介します。時代や表現意図も異なる作品を通して、植田の写真における天然のスタジオ、巨大なホリゾントの役割をあらためて感じていただけることでしょう。



妻のいる砂丘風景(Ⅲ)1950年頃

問い合わせ先

伯耆町立植田正治写真美術館 TEL:0859-39-8000

■メール: bijyutsukan@houki-town.jp ■ホームページ: <https://www.houki-town.jp/ueda/>
■開館時間/10:00～17:00(最終入館は16:30) ■休館日/毎週火曜日(祝日の場合は翌日) ※4月30日(水)は開館

町民の方は入館無料です。

ご来館の際は、広報ほうき3月号無料招待券をご利用いただくか、免許証など住所のわかるものを提示してください。